

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1490500079	事業の開始年月日	平成19年5月1日	
		指定年月日	平成19年4月1日	
法人名	ミモザ株式会社			
事業所名	ミモザ横浜永田みなみ台			
所在地	(〒232-0075) 神奈川県横浜市南区永田みなみ台2-1-211			
サービス種別 定員等	<input checked="" type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護 <input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	24名	
		通い定員	12名	
		宿泊定員	4名	
		定員計	名	
		ユニット数	ユニット	
自己評価作成日	平成24年8月9日	評価結果 市町村受理日	平成24年10月31日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・ 外食会や音楽鑑賞など外出する機会を多く持っています。 ・ 地域のイベントに参加し、地域との交流を深めています。 ・ ご家族の負担軽減のための、遅めの送りでも対応しています。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	平成24年8月25日	評価機関 評価決定日	平成24年9月17日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>【事業所の優れている点】 ◇毎月行う各種のテーマを対象とした30分研修は、新人を含め職員が順番に講師を務め研修報告書も分担して作成し、欠席者を含めて全職員に回覧することで、サービスの質の向上に努めている。 ◇設置法人と事業所理念を基に、事業所独自で作成した“ケアの行指針8か条”を、日々サービス開始前のミーティングで、一項目ずつ全職員で唱和し、理念を確認しながら介護サービスの充実を図っている。 ◇利用者は、同一建屋内にある併設事業所の利用者とも自由に交流して、リハビリ体操や楽しみごとに参加して、思い思いの時間を楽しめるよう支援している。</p> <p>【事業所が工夫している点】 ◇事業運営では併設の通所介護、予防通所と共同で、行事の内容・飾り付けや食事の内容などを検討する“接遇、食事、レクリエーション、事故防止、環境衛生、車輦”の6委員会を設け、全職員が委員長や委員として何れかの会に所属して活動を行っている。この結果、事業所が提供するサービスの質の向上が図られると共に、職員のサービス意識の高揚にも役立っている。</p>
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ横浜永田みなみ台
ユニット名	—

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<ul style="list-style-type: none"> ・地域のイベントに参加している。 ・地域のボランティアに来ていただき音楽会を開いて頂いています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に密着した事業所を目標に、全職員で作り上げた独自の理念を基に、8か条のケアに関する行動指針を掲げている。 ・毎日のサービス開始前とミーティング後に全員で1か条づつを唱和し、実践に繋げている。 	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の美容室を使ったり、スーパーへの買い物など、ご利用者と行っています。 ・民生委員かの誘いで地元との交流会に参加しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣商店街の自治組織である商栄会に加入している。 ・地域での認知症サポート活動への協力や地元住民の親睦会の“おしゃべり会”に参加して交流を図っている。、時には福祉サービスに関する講師としての役割を担っている。 	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症見守り隊に参加しています。 ・徘徊されている方を保護し、民生委員、包括支援センターへ連絡しています。 		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見やサービスを向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模をもっと知ってもらえるようにと会合等への出席を依頼されています。出席できるよ心掛けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・会議には家族や地元委員の出席を得て、2か月ごとに開催している。 ・地元の委員から、小規模多機能型のサービスの内容を、地域に詳しくPRしてほしいとの要望がだされ、“おしゃべり会”で説明した。 	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・不明なことがあった時は、区役所へ連絡をしています。 ・地域の会合に参加した時に区の職員とも交流があります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・横浜市が主催する小規模多機能型居宅介護サービスの連絡会で、市区の行政担当者と情報交換している。 ・事業運営上の疑問などは、必要の都度電話で相談して、アドバイスを得ている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回研修で取り組んでいます。 ・外へ出たがるご利用者とは一緒に外出して、気持ちを落ち着けています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法人の“身体拘束危険防止委員会”に施設長が出席して、内容を全職員に周知して、身体拘束のないケアに取り組んでいる。 ・外部に通ずるドアは、防犯対策のため施錠している。 	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・年1回研修で取り組んでいます。 ・入浴時にの怪我やアザなどに注意を払っています。 		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・対象となる方がいままので勉強する機会がありませんでした。今後は取り組んでいきたいと思えます。 		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	<ul style="list-style-type: none"> ・細かく分かりやすい説明を心掛けています。パンフレットを活用し説明をしています。 		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・意見、要望には出来る限りお応えできるよう心掛けています。 ・決まったことはミーティングや申し送りノートで職員全員で共有しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・家族からの要望や意見は、運営推進委員会や連絡帳で把握し、日々のミーティングで対策を協議して運営に反映している。決定事項は、申し送りノートに記載して、職員間で共有している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> 職員会議を開催し意見等を聴衆しています。 そこで出た案などは各委員会でも検討を行っています。 	<ul style="list-style-type: none"> 管理者は職員が意見を出しやすい雰囲気作りに配慮している。 宿泊室のベッドの改善事例や、送迎時の職員のシフト構成について、職員の意見を反映して見直すなど、その都度提案を具体化している。 	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<ul style="list-style-type: none"> 社内の研修参加を促しています。 資格取得や仕事への取り組み度合いで手当が増えるようになっていきます。 		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<ul style="list-style-type: none"> 月1回の30分研修を開催しています。講師は職員が行っています。 社内研修の参加を促しています。 		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<ul style="list-style-type: none"> 市の小規模連絡会に加入し参加しています。内容によっては職員にも参加してもらっています。 		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<ul style="list-style-type: none"> 職員全員が明るく声をかけながら安心して過ごして頂けるよう心掛けています。 		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族から十分お話をしていただけるよう心掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・通い、泊、訪問の中で何が一番重要か考えています。小規模でないサービスも視野に入れていきます。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・一緒に楽しく過ごせるように、楽しい家族のようになれるよう心掛けています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・契約時にはご家族の協力が必要であることを伝えていきます。 ・どうしても出来な部分を補うサービスを心掛けていきます。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	・小規模、デイサービスの中でお友達の方がいます。交流が出来るよう支援しています。 ・泊り中心の方をご自宅へお連れして地元のお友達に声をかけられるように支援しました。	・併設の通所の利用者と同じスペース、時間帯にリハビリやレクを行っており、取り組みを通して顔なじみの関係が維持継続できるよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・職員がご利用者の間に入り交流が図れるよう支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・いつでも連絡が頂けるようお伝えしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	・生活歴やご家族からのお話をなどから把握するよう努めています。 ・困難な場合は、色々と声をかけて出来ることやりたいことを見極めるようにしている。	・アセスメントの結果や日常生活の中から利用者の思いや意向を把握している、 ・意思表示が困難な方には、経験豊富な職員が対応して、本人の気持ちを掴むように努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・初回面接時に情報収集に努めています。以前のサービスから継続したサービスになるよう心掛けています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・何が出来て何が出来ないのか、どんなことをすると楽しいのか把握に努めています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・ご本人、ご家族、職員等の話からニーズを探り出してケアプランを作成しています。	・利用開始時には管理者・看護師とケアマネジャーが利用者・家族の意向を聞きカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。 ・ケアプランは基本的には3～6か月ごとに見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・ケース記録を個別に作成し、譲歩を共有し統一したケアに努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・通い、泊り、訪問とありますが、その中で細分化できるサービスをニーズに合わせて提供できることを心掛けています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・包括支援センターや元のケアマネジャーへの報告、連絡をしながら地域で支えられるよう支援しています。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・ご利用しているかかりつけ医との関係を継続して頂いています。 ・看護師からもかかりつけ医への相談等を行っています。	・かかりつけ医の受診を尊重し、家族が付き添って通院している。家族が困難なときは職員が通院を支援をしている。 ・かかりつけ医への通院が困難な利用者には、提携する診療所を紹介し、看護師が仲介している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> 職員から看護師への申し送りは徹底して行っています。 緊急時には電話連絡により指示を仰いでいます。 		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<ul style="list-style-type: none"> 入院時には、ご家族へ情報をしっかりと提供しています。 退院時では病院へ伺ったりして情報提供を頂いています。 		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> 地域の診療所と契約して頂き方針を共有して支援に取り組みました。 	<ul style="list-style-type: none"> 重度化した場合の対応については個々のケースごとに、家族、医師、看護師と相談して決めている。 職員は在宅介護などの外部研修に出席しており、重度化した場合は看護師を中心に個々の状況に応じて対応している。 	<ul style="list-style-type: none"> 重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を明確化され、職員の年間研修計画にも反映されることが期待されます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	<ul style="list-style-type: none"> 30分研修にて対応について毎年学んでいます。 消防署による心肺蘇生やAEDの使用方法を学んでいます。 		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の避難訓練行っています。夜間について今後行っていきます。 地域との協力体制は、民生委員を通してお願いしていますが、まだ確立できていません。 	<ul style="list-style-type: none"> 地元商店街の“商栄会”と、防災協定を結んでいる。自治会や消防団との協定は申し入れ中である。 年2回の避難訓練を実施しており、今後夜間を想定した訓練を計画している。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時に備え、運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、地元消防団との協力協定の締結が望まれます。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーと尊厳について、30分研修を年1回行っています。 ・接遇委員会で言葉づかいなどの接遇について検討し、職員全員で共有しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「プライバシーの尊重と個人情報保護の違い」等について、職員研修を行い、利用者の人格を尊重した対応に努めている。 ・「倫理規定」「法令遵守に関する規定」についても、職員に周知徹底している。 	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	<ul style="list-style-type: none"> ・押し付けることの内容心掛けています。選択肢を設けてご自分で選んで頂くことをしています。 		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の日課がありますが、ご本人の希望を伺いながら取組みや参加をお願いしています。 		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	<ul style="list-style-type: none"> ・入浴後お化粧をする方には鏡やブラシを用意したりしています。 ・女性職員が髪の毛を希望により結ってあげたりしています。 		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	<ul style="list-style-type: none"> ・職員とご利用者が一緒に食事をして、会話も楽しみながら進めています。 ・準備、片付けは出来る方をお願いをしています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・食事委員会が利用者の嗜好を入れ、栄養管理を含めた献立を作成して、職員が調理している。 ・毎月ファミリーレストランに出かけたり、お寿司の出前を取るなどの楽しみを工夫をしている。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・量についてお一人お一人確認をし、ご本人に合った分量でお出ししています。通所では5回の水分補給があり、少ない方には促しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・食事後は歯磨きをしていただいています。状況によっては職員が入歯を洗ったり、口の中を磨かせていただいています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	・排泄チェック表で排泄時間を確認して声掛けを行っています。 ・表情や動作でも確認を行っています。	・リハビリパンツの方には、排尿と失禁のマークを変えて排泄チェック表に記録し、次回の誘導に活かしている。 ・泊まりの際も、トイレに誘導したりポータブルトイレを使用して、排泄の自立を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・食物繊維の多いものやヨーグルトを提供しています。 ・1日2回の体操体を動かしていただいています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	・1日の流れ、健康状態などから午前中に入浴して頂いています。 ・気分の乗らないときなどは、翌日に入っていただくようにしています。	・職員は利用者と1対1で対話しながら入浴を楽しめるよう支援している。同性介助の希望には、可能な限り対応している。 ・湯上りマットの上に敷くタオルは利用者個々に取り換えて感染症の予防に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・日々の身体の状態に気を配り臨機応変に休んでいただいています。 ・泊時にはご本人の習慣に合わせて就寝をしていただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・薬の説明書を頂き、看護師の下薬の目的、副作用、用法とを理解するようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・個人の趣味や趣向に合った活動が出来るよう支援しています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・月1回の食事会と合わせた外出で機会を設けています。 ・団地内の散歩や玄関前での日光浴を行っています。 ・地域のイベント参加をしています。	・毎月、ファミリーレストランでの外食と併せてお花見やオーケストラ演奏鑑賞などに出かけている。 ・毎月の食事会の折外出し、希望があれば、スーパーマーケットでの買い物支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・買い物では、地域のスーパーでの買い物をしています。 ・イベント参加時でも欲しいものが買えるよう支援しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・手紙の支援はありませんが、状況に応じてご家族への電話はしていただいています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・植物を配置したり、季節に合った温度、湿度を設定しています。 ・整理整頓心掛け不快とならない雰囲気を作っています。	・桜・菊・朝顔の居室名を染めた暖簾、民芸調の階段箆箆や囲炉裏を設え、リクライニングチェアやソファを備えたリビングは、利用者が心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファがあたったりと、ところどころに座る椅子を配置しています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・居住を目的としていないため、持ち込みは最小限として頂いています。 ・ベットとイスは事業所で用意しています。	・利用者は写真や時計、着替えを持ち込む程度で、気軽な泊りの部屋となっている。 ・全て居間は、ドアを開けると職員の姿が見える環境にあり、利用者は安心して過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・トイレや風呂、泊の部屋などは分かりやすく表示しています。 ・手すりや角への緩衝材の取り付けを行い安全面にも気を付けています。		

目標達成計画

事業所名 ミモザ横浜永田みなみ台

作成日 平成24年10月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	12	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての方針を明確化され、職員の年間研修計画にも反映されることが期待されます。	方針の確立と対応方法の確立	スタッフミーティングで方針、対応方法を話し合っていく。 事例等をもとに検討を行っていく。	1年間
2	35	災害時に備え、運営推進会議の議題の一つとして取り上げ、地元消防団との協力協定の締結が望まれる。	自治会との防災訓練の実施	地域の防災訓練に参加する。 新自治会長への運営推進会議への出席をお願いしていく。	1年間
3					
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。